

学校訪問指導 - 今年度の総括 -

本年度の学校訪問指導は、市町担当者は年2回（前期，後期）の訪問を実施する。教科等担当者による計画訪問の希望を2回までに拡充する。新設された特別支援学級や通級指導教室の新任担当者のある学校は全て訪問する。全ての中学校に生徒指導に関する計画訪問を実施する。を主な変更点として実施し、下の表に示すような訪問実績となりました。

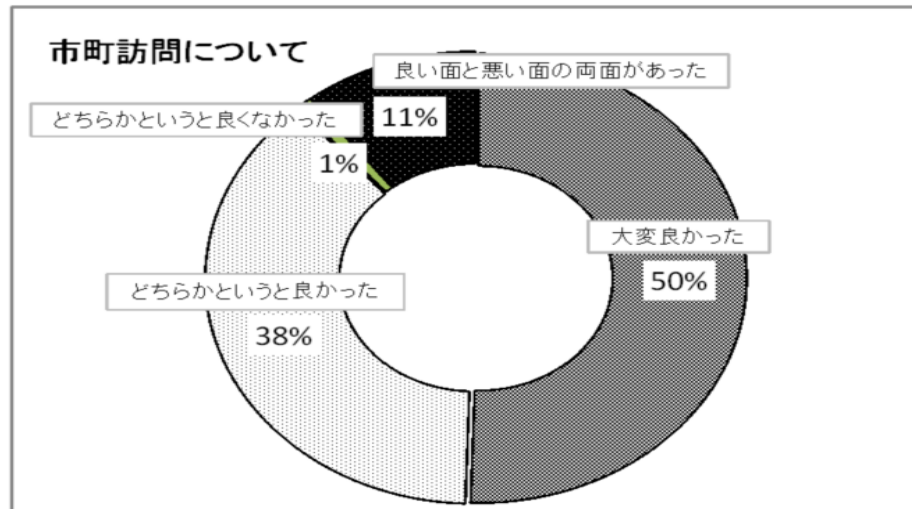
H22年度 学校訪問指導の回数

	市町担当	教科等担当 ()	特別支援教育	生徒指導	計
幼稚園・保育所		4	0	0	4
小学校	160	99	31	4	294
中学校	54	27	16	27	124
計	214	130	47	31	422

()初任研含む

これら以外に、各市町教育研究会教科等専門部会が主催する研修の講師派遣要請が11回ありました。単純に平均すると、1校あたり4回程度の学校訪問指導を実施したということになります。また、の変更点により、2回の教科等担当者による計画訪問を希望した学校は20校あり、各校での教科指導力向上や教育研究推進に役立てていただいたと思います。

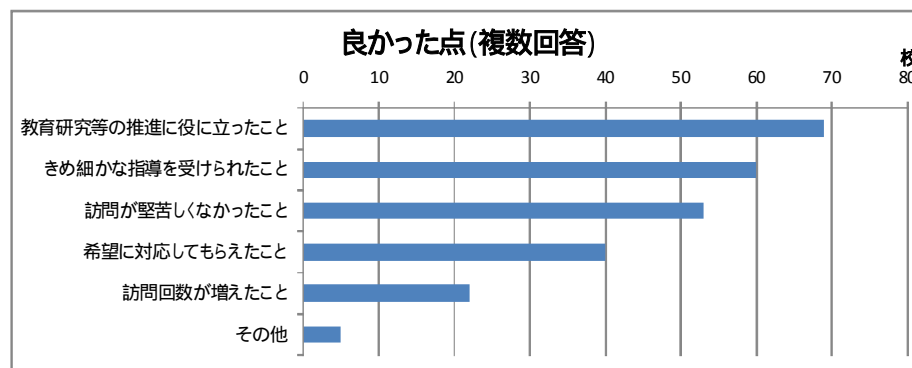
2月に市町担当者による計画訪問についてのアンケートを実施しました。その結果についてお知らせします。



本年度2回実施したことについては「大変よかった」「どちらかという良かった」という評価を88%の学校(93)校からいただきました。

良かった点については、「教育研究の推進に役立った」(69校)「きめ細かな指導を受けられた」(60校)の順となっており、この訪問がそのねらいである各学校の教育研究や学力向上の取組の推進につながりつつあると感じます。

また、214回の訪問のうち、78回に市町教育委員会からの同行がありました。学校からは「授業や説明、協議を通して学校の現状を知ってもらえた」という声、教育委員会からは「学校の支援や施策の在り方を考えるための多くの情報をもらうことができた」という声がありました。当所としては、市町教育委員会と協働した学校支援を進めることができつつあると考えています。



一方、アンケートの「良くなかったとする点」の記述から改善すべき点として、市町担当者による計画訪問のねらいについて更に明確にして理解を図る必要がある。限られた時間の中で有益な訪問にするために、協議内容について事前の打ち合わせの必要がある。時間設定に余裕を持たせる必要がある。(午前と午後学校訪問を計画した場合、特に午前の訪問では時間の制約が大きい)があげられます。次年度の学校訪問指導の実施について、アンケートの結果を生かした改善となるよう検討していきます。

所報 管内の教育

第36号

主な内容 1 新年度への円滑な移行に向けて
2 各研究事業の成果・今年度公開された指導事例集等
3 学校訪問指導 - 今年度の総括 -

出雲教育事務所
平成23年 3月



新年度への円滑な移行に向けて

所長 三島修治

本年度も残りわずかとなりました。各学校では年度末という大きな節目の時期を迎え、教職員の皆様が一丸となって、卒業や進級或いは来年度の準備に取り組んでおられることと思います。

この時期になると、退職されて久しいある中学校の校長先生を思い出します。当時、私はこの校長先生とかわる機会が多くありました。管理職としても尊敬しており、今も私が目標とする校長先生の一人です。後日、その校長先生が勤務しておられた中学校の特別支援学級に在籍していた保護者の一人とお話をする機会がありました。その概要を了解を得て紹介します。

保護者：「あの中学校でよかったなと思っています。それは、子どもが2年生に進級する時に、替わってこられた校長先生が、始業式の前に特別支援学級の保護者との懇談の場をもってくださったからです。こんなことはこれまでにありませんでした。その場で、校長先生が言われたことは親として大変うれしいものでした。また、校長先生や学校を信頼する気持ちが高まりました。親として安心して学校にまかせようという気持ちになりました。」

私：「始業式前に、校長先生が保護者との懇談の場をもたれたのです。どんなことを話されたのですか？」

保護者：「校長室に特別支援学級の保護者2名が呼ばれました。初めは緊張していたのですが、校長先生が『皆さんの子どもさんは、我が中学校の大切な一員です。ですから、他の生徒と同じように対応します。いろいろな活動もできるだけ一緒にしていきたいと思っています。ですが、本人が困ることもあるでしょう。そのために特別支援学級という場を設けていますので、その場を有効に使って、子どもさんの力に合わせて指導していきたいと思っています。私たち教職員もそのような気持ちと一緒に学校生活を過ごしていきたいと思っています。保護者の皆さんの協力がなければよい指導はできません。一緒にやりましょう。何かあれば、いつでも担任に相談してください。』と力強く言われました。そして、私たち親の思いを聞いてくださいました。」

私：「そうですか。それは、うれしかったですよね。緊張も解けたでしょうね。」

保護者：「そうです。とても緊張していたんですが、校長先生が最初に『我が中学校の大切な一員ですよ。一緒ですよ。』と言われたことでうれしくなって緊張が解けて、校長先生の方を向くことができました。その時の表情や話しぶりから、この校長先生なら安心しておまかせできると感じました。それから後の時間は、とてもリ

ラックスできて、4月からの学校生活への思いを校長先生に伝えることができました。」

私：「『我が中学校の大切な一員ですよ。みんなと一緒にですよ。』と言われたことがとてもうれしかったんですね。」

保護者：「そうです。中学校に入学してからの1年間の生活を見ると、小学校で一緒だった子どもさんたちと離れていく気がして寂しさを感じていました。親としては、子どもに合った教育を願う気持ちと同時に、同年代の子どもさんと一緒に学ぶ場もほしいと悩んでいたんです。」

私：「そんな時に、新しい校長先生が直接、考えを伝え合う場をもってくださったこと、その場でみんなと一緒にだと言われたことが心に響いたんですね。そして、信頼できるという気持ちになったんですね。」

保護者：「そうです。まず、みんなと一緒にだと言われたことでずっと心が落ち着きました。その後に、特別な指導の場も大切にしていこうと言われたんですが、素直に受け入れられました。それから卒業まで、いろいろ悩むこともありましたが、あの時の校長先生のお言葉が浮かんで来て、学校に対する信頼は変わりませんでした。」

私：「子どもや保護者にとって、環境が変わるときには不安も大きいですが、学校が校長先生をリーダーとして、その不安を少なくし、よりよい教育をしようとする姿勢や取組を示すことが大切なんですね。」

当時、この校長先生は、生徒や保護者に向けて学校がめざす生徒像をスローガンとしてわかりやすく校外に提示しておられました。当時の教職員も、校長先生が目標を明確にかつ具体的に示されること、指示や行動が迅速であり一貫していること、何より生徒、保護者、教職員の思いを大切にされる姿勢から、教職員の気持ちが一つになって学校が動いていると自信をもって話していました。

3月は、新年度に向けて、やるべきことが錯綜する時期です。児童生徒やその保護者が安心して4月からの学校生活を過ごせるよう、移行に向けての取組が適切になされているかを再点検することが必要となります。校長のリーダーシップのもとで、送り出す側と受け入れる側との十分な連携が行われることを切に願っています。

最後になりますが、この時期は定期人事異動の時期であり、同じ職場で喜びや苦労を共に味わった仲間との別れの時期でもあります。特に本年度末で教職を退かれる皆様には、長年に渡って本県教育に多大なご尽力いただきましたことに心から感謝する次第です。本当にありがとうございました。皆様のご多幸とこれからの生活の一層の充実をお祈りいたします。

研究の概要 「確かな学習力を身につけた生徒」とは・・・

自ら目標を設定し、積極的に学ぼうとする生徒【HI：意欲】

自分の考えを言葉や文章で表現し、
学んだことを定着させる努力をする生徒

【GA：努力】

自分の考えを深めながら、
学んだことをさまざまな
場面で活用できる生徒

【SHI：活用】

斐川町立斐川東中学校

確かな学習力を身につけた生徒の育成
～HI・GA・SHIサイクルの確立をめざして～



取組の概要

各教科・領域の取組
研究主題を受けて、各教科・領域で重点課題と具体的方策を掲げた授業改善

その他の取組
ア自学ノートへの取組や「学習の手引き」・「学習のポイント」の配付と指導
イ「聴いて、考えて、つなげる」型の授業展開の工夫
ウ教員組織を工夫した授業

成果

授業改善により、生徒は自分の考えをはっきりと話すことができるようになりました。また、友達のことを聞き、考えを深めようとする姿勢が育ってきました。

教科によらない組織による授業研究の方法をとったので、全教職員で推進していく意識が醸成されました。

研究の概要

【指導の重点】

行事や勤労活動を通して勤労意欲を育て、その意義について考えさせる。
金融に関わる社会の仕組みや知識について理解し、グループ活動やロールプレイなどを通して定着を図る。

他者に対する感謝する気持ちやものを大切にする心を育み、それらを表現し、実践できるようにさせる。

事業の概要

幼稚園・保育所・小学校・中学校が連携を深め、学習習慣・学習規律・教員の授業力の向上を図ることにより、幼児児童生徒の基本的な生活習慣や生活リズム等を改善し、学習意欲と学力向上を推進する取組が積極的に展開されました。

取組の概要

【総会（2回）】中学校区の全教員、保育士が集まり、幼保小中学校を通して成長する子どもの発達を考慮しながら、子どもに身につけさせたい力や習慣の共通理解と実践の成果・課題が熱心に話し合われました。

【学力向上部会】他校の授業参観が積極的に行われ、教員にとり自己の授業に役立てられたとともに小中、小中の交流を深めることにつながりました。また自主学習ノート集を作成し、児童の自主学習に対する意欲を高めることにつながりました。

【こころ・生活部会】地域全体で身につけたいふるまいを「横田しぐさ7ヶ条」として作成し、各校では児童の実態に合わせて作成された7ヶ条が活用されています。

【生活習慣部会】生活習慣づくりに向けて「生活チャレンジシート」を作成し、町内一斉に3回実施されました。特に幼・保の保護者には生活習慣改善への意識の高まりが見られています。

成果

幼児から児童、生徒へと子どもの成長を一連したものと捉え直し、はぐくみたい力が明確にされました。

取組は、各学校、各学級、各家庭へとつながられ、同時展開されています。

研究の概要

研究主題のもと、心の活力を

「主体的に取り組む力」「自分自身を高めようとする力」「友達と関わり合う力」ととらえ、

音楽科・道徳の取組を通してはぐくまれました。

奥出雲町立横田中学校区の幼稚園・保育所・小学校・中学校

（横田中学校・鳥上小学校・横田小学校・八川小学校・馬木小学校・鳥上幼稚園・横田幼稚園・八川幼稚園・馬木幼稚園・横田保育所）



幼保小中連携ステップアップ事業

〔H21・H22〕

取組の概要

道徳では、地域素材をいかした自作資料の活用資料提示の仕方「心のバロメーター」等を用いた表現活動 発問の吟味の4つの視点から、子どもの心に響く道徳の時間の授業づくりが工夫されました。児童は積極的に思いを表現し、自他の思いを比較する中で、道徳的価値の自覚を深めました。教師は児童の心の変容を適切にとらえ、深まりのある授業が展開されました。

確かな学力の育成に係る実践的調査研究

〔H20～H22〕

各研究事業の成果

〔H21・H22〕

道徳教育実践研究事業

〔H21～H22〕



斐川町立中部小学校

「感じて 伝えて 認め合う子どもの育成」
～子どもの心に響き、心の活力をはぐくむ道徳教育～

金融教育研究校

奥出雲町立仁多中学校

学ぶ意欲の向上をはかり、自己実現を支える確かな学力を育成する指導の実践



取組の概要

全校体制で取り組む金融教育の取組
・全体計画と年間指導計画の作成と見直し
・ねらいの明確化 ～他者への感謝の気持ち（心）を育てる指導の重視
・「多」教科等で金融教育の実践を展開する体制作り
・全教職員による授業実践及び公開、協議
地域のよさ、地域の人々と連携した取組の展開
・地元商工会等と連携した商品化・販売体験活動ブルーベリージャムの商品化と販売（「ベンチャー・キッズ・プログラム」の取組から）
・PTAと連携した研修会の実施
金融教育講演会「世界一おもしろいお金の授業（全校生徒と保護者参加）」

成果

年間指導計画に、金融教育の目標の関連を示し、多くの教科等で全学年にわたって実践を行ったことは、金融教育の視点を明確にした教育活動の推進と全教職員の理解につながりました。

成果

自作資料は児童の興味関心・問題意識・共感を高め、心に響く道徳の時間となりました。発問の吟味や「心のバロメーター」などの表現活動の工夫は、自分を見つめ振り返る上で有効な手立てとなりました。「心の活力」をキーワードに、教師のまとまりのある教育活動の展開がみられました。

今年度公開された主な事例集等

言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】（平成22年12月）
文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm
評価規準の作成のための参考資料（平成22年11月）（小学校・中学校）
国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>
今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）（平成22年11月）
文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/sougou/1300434.htm

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（平成22年8月）（小学校・中学校）
国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/10chousakekkahoukoku/10jugyourei.htm>
全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例集（平成23年1月）
国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/08zireishuu/0908zireishuu.htm>
病気の子どもの理解のために 第2巻（平成22年3月）
国立特別支援教育総合研究所 <http://www.nise.go.jp/portal/learn/shiryoku/byoujyaku/supportbooklet.html>